

第8章 技術・家庭

1 中学校技術・家庭科の内容のまとめ

中学校技術・家庭科における内容のまとめは、以下のようになっている。

〔技術分野〕

- 「A 材料と加工の技術」(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術
- 「A 材料と加工の技術」(2) 材料と加工の技術による問題の解決
- 「A 材料と加工の技術」(3) 社会の発展と材料と加工の技術
- 「B 生物育成の技術」(1) 生活や社会を支える生物育成の技術
- 「B 生物育成の技術」(2) 生物育成の技術による問題の解決
- 「B 生物育成の技術」(3) 社会の発展と生物育成の技術
- 「C エネルギー変換の技術」(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術
- 「C エネルギー変換の技術」(2) エネルギー変換の技術による問題の解決
- 「C エネルギー変換の技術」(3) 社会の発展とエネルギー変換の技術
- 「D 情報の技術」(1) 生活や社会を支える情報の技術
- 「D 情報の技術」(2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決
- 「D 情報の技術」(3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決
- 「D 情報の技術」(4) 社会の発展と情報の技術

〔家庭分野〕

- 「A 家族・家庭生活」(1) 自分の成長と家族・家庭生活
- 「A 家族・家庭生活」(2) 幼児の生活と家族
- 「A 家族・家庭生活」(3) 家族・家庭や地域との関わり
- 「A 家族・家庭生活」(4) 家族・家庭生活についての課題と実践
- 「B 衣食住の生活」(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- 「B 衣食住の生活」(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- 「B 衣食住の生活」(3) 日常食の調理と地域の食文化
- 「B 衣食住の生活」(4) 衣服の選択と手入れ
- 「B 衣食住の生活」(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- 「B 衣食住の生活」(6) 住居の機能と安全な住まい方
- 「B 衣食住の生活」(7) 衣食住の生活についての課題と実践
- 「C 消費生活・環境」(1) 金銭の管理と購入
- 「C 消費生活・環境」(2) 消費者の権利と責任
- 「C 消費生活・環境」(3) 消費生活・環境についての課題と実践

2 中学校技術・家庭科(技術分野)における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

ここでは、内容「A 材料と加工の技術」(2) 材料と加工の技術による問題の解決 を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明する。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、①及び②の手順を踏む。

＜例 技術分野 内容「A 材料と加工の技術」

(2) 材料と加工の技術による問題の解決＞

【中学校学習指導要領 第2章 第8節 技術・家庭「第1 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(中学校学習指導要領 P. 132)

【改善等通知 別紙4 家庭, 技術・家庭(1) 評価の観点及びその趣旨 ＜中学校 技術・家庭＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙4 P. 18)

【中学校学習指導要領 第2章 第8節 技術・家庭「第2 各分野の目標及び内容」

〔技術分野〕 1 目標

(1)	(2)	(3)
生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

（中学校学習指導要領 P.132）

【改善等通知 別紙4 家庭，技術・家庭（2）分野別の評価の観点の趣旨

＜中学校 技術・家庭（技術分野）＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，技術を工夫し創造しようとしている。

（改善等通知 別紙4 P.18）

① 各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

A 材料と加工の技術

(2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。

イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。

（下線）…知識及び技能に関する内容

（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

(1) 「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・この観点は、基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況の評価するものであり、技術に関する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び、生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価する。
- ・ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について（を）理解している。」、「～ができる技能を身に付けている。」として作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・この観点は、技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。技術分野の各内容は「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の三つの要素からなる学習過程を踏まえて項目が設定されていることから、各項目では、一連の学習過程における位置づけを踏まえた思考力等を評価する。
- ・ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置づけに基づき「～について考えている。」として作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・この観点は粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）、自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）に加え、これらの学びの経験をとおして涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度について評価する。

- ・ここでの評価規準は、基本的には、分野の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。
- ・この観点で評価する資質・能力については、各内容における（２）及び内容の「D情報の技術」の（３）に関する「内容の取扱い」に、「知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度」及び「他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度」が示されており、これらについても配慮する必要がある。
- ・この観点の評価規準は、一連の学習過程で育成される資質・能力の関連に配慮し整理することが大切である。例えば、各内容における（１）で身に付ける「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力は、各内容における（２）及び内容の「D情報の技術」の（３）の「技術による問題の解決」の学習に生かされるものであることから、各内容の（１）では「主体的に技術について考え、理解しようとする態度」について評価することが考えられる。

（２）学習指導要領の「２ 内容」 及び 「内容のまとめりととの評価規準（例）」

学習指導要領	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
２ 内容	ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。	イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当分野の目標（３）を参考にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりととの評価規準例	製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。 ※必要に応じて分野別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

3 中学校技術・家庭科(家庭分野)における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

ここでは、内容「B 衣食住の生活」(4)衣服の選択と手入れ を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明する。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、①及び②の手順を踏む。

<例 家庭分野 内容「B 衣食住の生活」(4)衣服の選択と手入れ>

【中学校学習指導要領 第2章 第8節 技術・家庭「第1 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(中学校学習指導要領 P.132)

【改善等通知 別紙4 家庭、技術・家庭(1)評価の観点及びその趣旨 <中学校 技術・家庭>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙4 P.18)

【中学校学習指導要領 第2章 第8節 技術・家庭「第2 各分野の目標及び内容」

【家庭分野】 1 目標

(1)	(2)	(3)
家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(中学校学習指導要領 P. 136)

【改善等通知 別紙4 家庭、技術・家庭（2）分野別の評価の観点の趣旨

＜中学校 技術・家庭（家庭分野）＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙4 P. 18)

① 各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

B 衣食住の生活

（４）衣服の選択と手入れ

次の（１）から（７）までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。

（イ） 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。

イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。

（下線）…知識及び技能に関する内容

（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

※「A家族・家庭生活」の（１）「自分の成長と家族・家庭生活」及び（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」，「B衣食住の生活」の（７）「衣食住の生活についての課題と実践」，「C消費生活・環境」の（３）「消費生活・環境についての課題と実践」は，指導事項アのみで構成されている。（１）の評価の観点については，「知識・技能」，A（４），B（７），C（３）の評価の観点については，家庭や地域などで実践を行い，課題を解決する力を養うことから，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」であることに留意する。

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

（１）「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。

※「A家族・家庭生活」の（１）については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、教科の目標の（２）に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになる。基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を分野の評価の観点の趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと分野の目標、分野の評価の観点の趣旨を踏まえて作成する。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととする。具体的には、①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）、②自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）に加え、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（③）」として、評価規準を作成する。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
学習指導要領 2 内容	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり，目的に応じた着用，個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 (イ) 衣服の計画的な活用の必要性，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し，適切にできること。	イ 衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え，工夫すること。	※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，該当分野の目標(3)を参考にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準 例	・衣服と社会生活との関わりが分かり，目的に応じた着用，個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに，適切にできる。	これからの生活を展望し，衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて，衣服の選択と手入れについて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 ※必要に応じて分野別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。